



まるごとやま だより

磨練 慈愛 鍛錬

第 5 号

H29. 6. 8

女川町立女川中学校だより

文責：山内

いざ、戦いのとき来る^{きた}

さわやかな季節です。今週から衣替え完全実施となりました。

衣替えの習慣は、すでに奈良、平安時代からあったようで、万葉集の歌の中に、「春過ぎて 夏来たるらし しろたへの 衣ほしたり 天の香具山」(春が過ぎて夏がやって来たらしい。青葉若葉の輝く中に衣替えの真っ白な衣が干してあるよ、あの天の香具山に。)という歌があります。この和歌のように、生活の中の風物から敏感に季節を感じ取ってきたのが日本人でした。あくせくした毎日ですが、自然の変化や四季の移り変わりに目を向けるゆとり、大切にしたいですね。

さて、石巻地区中総体がいよいよ目前となりました。まさに「戦いのとき来る」です。先日、各競技会場や組み合わせ等についてのプリントを配布しましたが、各部の詳しい参加計画については、各部ごとに配布したプリントをご確認ください。今年度は各会場でどんな感動やドラマが生まれるのでしょうか。

保護者の皆様、ぜひ会場で子どもたちの輝く姿をご覧ください。



各部の部長の抱負

<野球部>

安藤 快くん

野球部は、どこの部活よりも声を出して頑張ってきたチームだと思っています。毎日やってきたことを結果につなげたいです。チームとしての抱負は、「日々の努力を試合に、試合で得た経験を練習に」です。個人としての抱負は「骨が折れても心は折れない。前だけを向いて進む。」です。

今年は顧問の先生も1人増え、1年生も4人増えて戦力がとても上がったと感じています。一つ一つのプレーを大事にし、中総体1回戦を勝ちたいです！応援してくれる親、顧問の先生、コーチに恩返しができたらいいと思っています。

<ソフトボール部>

和田萌楓さん

私たちソフトボール部は、目標である県大会出場を目指し、日々の練習を頑張ってきました。去年の先輩たちの願いと目標であった県大会に行けるように頑張りたいです。地区大会では、声の大きさではどこのチームにも負けない、という3年生でつくった合い言葉を1年生も共有して、勝っているとき、ピンチのとき、同じくらいの声を出していきたいです。3年間やってきたことを信じて120%の力で戦ってきたいです。毎回応援して下さる親の会、吹奏楽部、そして三浦先生には感謝という名の恩返しをしたいです。

<サッカー部>

鈴木 翔くん

中学校に入学して新しく部活に入り、私たちは先輩方とともに中総体を経験しました。その頃の私たちはまだ中総体への思いが浅く、勝ち負けをあまり意識せずにサッカーをしていました。しかし、学年が上がって大会を経験していくうちに、チームとして勝つ、チームとしての力を上げるという気持ちが出てきました。今は、ときには怒ったり、ときには笑ったりしながら歩んできた仲間とともに、勝つことを意識しながら部活動に取り組んできました。中総体では決勝に残れるように女川代表として頑張りたいです。

<女子ソフトテニス部>

山本真子さん

今年の中総体は、2年生4人、1年生4人の計8人で出場します。試合には全員が出ます。私たちは、日々の練習や練習試合などの中で、自分の強みや弱みを見つけることができました。中総体では、自分の強みを発揮し、弱みを相手に見つけられないようなプレーができたらいいと思います。それに、相手がどんなに強い相手でも、全員最後まで全力で立ち向かっていき、自分も、見てくれている人も、いい試合だったと納得できるようなプレーをしたいです。そして、みんなと勝ち進めるよう頑張りたいと思います。

<男子バレーボール部>

門馬吏甫くん

私たち男子バレーボール部は、最後の中総体で県大会出場を目標にして挑みたいと思います。県大会出場のために、男子バレーボール部は、チームの特徴の「サーブで相手を乱しブロックで点を稼ぐ」というやり方で中総体に挑みます。ですが、レシーブが少し弱いのがチームの弱点なので、中総体までに少しでもうまくなるように練習に励み、最後の中総体で悔いの残らないプレーができるよう、全力で取り組みたいと思います。

<女子バスケットボール部>

河合優香さん

私たちバスケットボール部は、一番人数が少ない部です。だからこそ、みんなで力を合わせて頑張りたいです。しっかり先輩を引っ張っていけるようにしたいです。私たちの目標は、一戦一戦を大切にすることです。一試合一試合を大事にすれば、結果はついてくると思うので、まず1回戦を突破できるように、中総体までの練習に全力で取り組んできました。悔しい思いで終わらないように、しっかりとした気持ちで中総体に挑めるようにしたいです。

＜バドミントン部＞

阿部優奈さん

私たちバドミントン部は、シャトルが床につくまで諦めず、最後までシャトルを追いかけて、相手から1点でも多く取って1試合でも多く勝つ。

仲間に届くような大きな声で応援をして、試合をしている側も、応援をしている側も、声と気持ちで相手に負けないようにする。一人一人が自分の力を全て発揮し、悔いのない試合にする。

＜柔道部＞

阿部雄大くん

私たちは、県大会に行くために毎日練習してきました。この大会で、3年生は最後です。自分たちが悔いの残らないような試合をしてきたいと思います。そして団体戦でも、みんなと一緒に目標を達成して、県大会へ行きたいと思えます。最後に、みんなが本気で戦いながらも楽しく終わり、自分たちで柔道をやってきてよかったと思えるような大会にしていきたいと思えます。

＜卓球部＞

木村真威人くん

今期、卓球部では練習場所の移動やコーチをお呼びしたことなど、変化したことが数多くあります。そして、練習風景も大きく変化しました。まず、コーチが部活に付きっきりになったので、さほる部員が大きく減少しました。そして、練習自体も、休憩時間を減らして練習時間が増やしました。中総体では、これまでの卓球部と違い、1回戦敗退ではなく、1回戦勝利を目標とし、頑張ってきます。

＜吹奏楽部(応援)＞

鈴木愛実さん

私たち吹奏楽部は、運動部の皆さんの力になる応援をしたいです。今年は応援に行く部の試合時間が重なってしまい、応援に行けない試合や、部員を二手に分けて応援に行く試合もあります。

他の学校の応援は人数が多いかもしれませんが、私たちは声も気持ちも負けず、選手の皆さんが悔いのない結果になるように全力で応援に行きます。

◆◆中総体激励会を行いました◆◆

先週から今週にかけて、教職員对各運動部の壮行試合を放課後に行いました（ホームページをご覧ください）。どの壮行試合もよい雰囲気の中で行われ、試合後には教職員側からエールを送りました。

また、今日の6校時に、生徒会主催の中総体激励会を行いました。校長の励ましの言葉と高橋小紅さんの激励の言葉に続いて、各部ごとに選手紹介と決意表明を行いました。その後、選手代表として門馬吏甫さんと和田萌楓さんの選手宣誓の後、エール及び校歌を歌いましたが、女川中生らしい、気合いの入った“力のある声”でした。そして瀬戸一輝くんのお礼の言葉で会が終わると思いきや、最後は恒例の“サプライズ”。今年度は生徒と教職員全員の合唱で締めくくりました。

子どもたちには、支えてくださった家族や様々な方々への感謝の気持ちを持ちつつ、女川中学校代表としての自覚をもって大会に臨んできてほしいと思えます。



山内の“ひとりごと” Vol.4

私は大学時代にサッカー部に所属していました。練習では、PK(ペナルティーキック)の練習もしますが、練習や練習試合で蹴るPKはほとんど外したことがありませんでした。けれども、天皇杯宮城県予選という大事な試合でPKを外してしまったことがあります。

緊張によって自分の心をコントロールできなかったことが原因でした。相手ではなく、自分の心に負けたのです。

さて、次の話は、ある学級の、帰りの会の担任の先生の話。

「なあみんな、地面においた幅20cmの板の上を、板から落ちずに5m歩くことができる？ほとんどの人はスイスイ渡れるだろうね。でもさ、その板が地上10mの空中に設置されたらどうだ。足がすくんで渡れないだろう。不思議だな。渡れる技術をもっているのに、なぜ渡れないんだろう……。それはね、心の中に“怖い”とか“落ちたらどうしよう”といった恐怖が生まれるからなんだ。つまり、自分の技術や力がちゃんと出せるかどうかは、“心”に左右されるんだよ。力を出し切って負けたのなら、しょうがない。だけど、自分自身の弱い心に負けて、力を出し切れなかったら、悔いが残るぞ。勝負だから必ず勝てるとは限らない。でも、誰にでも勝つチャンスがある戦いがある。それは、“自分との戦い”だ。人に負けてもいい。しかし、自分の心の弱さには絶対負けたくない。そんな気持ちをもって、“自分との戦い”にだけは勝って帰ってきてください。それが“悔いのない終わり方”だと思います。」